

気化式加湿冷風機

HSE302α

取扱説明書

このたびはシズオカの加湿冷風機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。



- お使いになる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、製品を正しくお使いください。
- 取扱説明書は、お使いになる方がいつでも見ることができる場所に大切に保管してください。

もくじ

まえがき	1
1. 特に注意していただきたいこと	2
2. 各部のなまえ	3
3. 初めてお使いになる方へ	4
4. 使用方法	6
5. 定期点検・掃除方法	9
6. 故障・異常時の処置	13
7. 仕様	13
8. 安全ラベルの一覧	14
9. 保管	15
10. アフターサービス	15
11. 定期交換部品	15
12. 別売部品	15

まえがき

◆ この取扱説明書には、この製品を安全に正しくお使いいただくため、必ずお守りいただきたい注意事項が表示されています。その注意事項は△**危険**、△**警告**、△**注意**に区分されています。表示内容をよくご理解いただき本文をお読みください。

△ 危険 この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を表示しています。

△ 警告 この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の可能性が想定される内容を表示しています。

△ 注意 この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

※ 「△**注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1 特に注意していただきたいこと

安全のため、必ずお守りください。

* 下記の項目は、この製品をお使いいただく上での重要な安全事項が書かれています。ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 危険

1. アースは必ず取り付けてください。

- 感電防止のため、アースは必ず取り付けてご使用ください。また、漏電ブレーカーを設置したコンセントを使用してください。
- アース線は、ガス管、水道管、避雷針用アース線、または電話のアース線に接続しないでください。
- アースが不完全な場合は、感電のおそれがあります。アース線は、アース接続ねじに確実につないでください。

2. 水のかかる場所での使用禁止

屋外、および水のかかる場所では使用しないでください。また、ぬれた手でスイッチを操作しないでください。感電するおそれがあります。

3. 異常時使用禁止

異常を感じたとき（異音、漏水、焦げ臭い等）は、すぐに運転を停止してください。異常のまま運転し続けると、重大な故障、感電、火災の原因になります。

4. 電源コード・電源プラグ破損状態での使用禁止

電源コードは、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、挟み込んだり、加工しないでください。また、電源コード・電源プラグの上に重いものを載せないでください。電源プラグのほこりは取り除いてください。火災や感電の原因になります。

⚠ 警告

1. 回転物への接触禁止

吹出口や吸込み口に指や棒などを絶対に入れないでください。回転部に触れて、けがをするおそれがあります。

2. 改造使用の禁止

改造して使用しないでください。故障や火災等の原因になり危険です。

3. 電気部品への水掛け禁止

電気部品に水をかけないでください。気化エレメントなどの掃除などのとき、電気部品に水がかからないようご注意ください。電気部品の絶縁が劣化し、感電の原因になることがあります。

4. 火の粉などが飛散する場所での使用禁止

鉄工場など火の粉が飛び散るような場所では使用しないでください。火災につながる可能性があります。

5. 吊り上げの禁止

取手にロープなどを掛けて吊り上げないでください。転倒しケガをするおそれや機械が破損するおそれがあります。

6. 感電注意

電源プラグはぬれた手で抜き差ししないでください。日常の点検、お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電やけがの原因になります。

⚠ 注意

1. 吸込み側の空間確保

本体の吸込み側は十分に空間（50cm以上）をとってください。吸込み側を壁面その他の障害物に近づけすぎると風量不足となり、性能低下のおそれがあります。

2. 傾斜設置での使用禁止

本体は水平に保ってください。傾けると水が漏れるおそれがあります。

3. 給水状態での移動禁止

給水状態では本体を動かさないでください。タンクの転倒や循環水がタンクケースからこぼれ、床面をぬらすおそれがあります。

4. 水道水以外の使用禁止

40℃以上のお湯や化学薬品、芳香剤、アロマオイル、井戸水、工業用水など使用しないでください。タンクやタンクケースの破損や臭気発生の原因になります。

5. 残留水の放置禁止

毎日、運転終了時には必ず残留水を排出してください。タンク、タンクケース内の水をそのまま放置すると、腐敗や微生物増殖などにより、臭気発生の原因になります。

6. 水が凍結する環境での使用禁止

水が凍結する環境では使用しないでください。ホースや部品が破損するおそれがあります。休止中、凍結のおそれがある場合は水抜きを行ってください。

7. 周囲環境の注意

粉塵やオイルミスト、腐食性ガスが浮遊している環境で使用しないでください。故障の原因になります。

8. 冷風機として使用する場合の換気の注意

冷風機として使用する場合は、換気設備の十分な空間でお使いください。締め切った狭い空間では湿度が過度に上昇することがあり、冷却効果は得られず、周辺の機械器具に湿気による錆などを発生させる可能性があります。

9. 前方設置品の防錆注意

吹き出す風は湿気を帯びているため、吹出口の前方には錆びやすいものを置かないでください。

10. 酸性・アルカリ性洗剤の使用の禁止

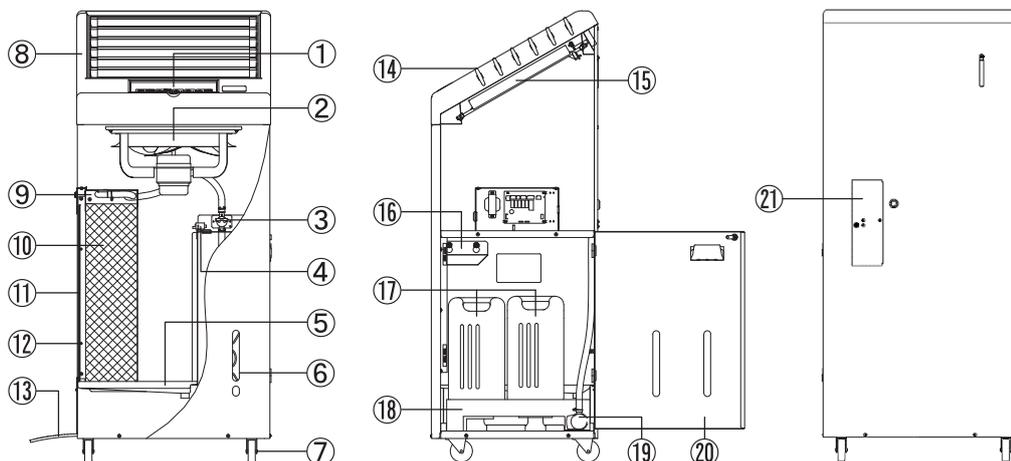
酸性、アルカリ性洗剤は使用しないでください。洗剤は中性洗剤のみ使用してください。それ以外の洗浄剤または化学薬品を使用すると、機械の安全性に悪影響を与えることがあります。

⚠ 注意

11. 100 m³以下の空間における除菌脱臭運転の禁止

100 m³以下の空間ではオゾン濃度が高くなるおそれがあるため除菌脱臭運転は行わないでください。

2 各部のなまえ



- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| ① 操作部 | ⑧ 吹出部 | ⑮ 自動風向 (左右) |
| ② 送風ファン | ⑨ 散水部 | ⑯ ポンプトレイ |
| ③ フロースイッチ | ⑩ 気化エレメント | ⑰ タンク (2個) |
| ④ オゾナイザー | ⑪ フィルター | ⑱ タンクケース |
| ⑤ エレメントケース | ⑫ スペーサー・バー | ⑲ ポンプ |
| ⑥ 水位検知窓 | ⑬ 電源コード | ⑳ 扉 |
| ⑦ キャスター | ⑭ 手動風向 (上下) | ㉑ フロースイッチ取付板 |

安全装置の説明	
過電流保護 (ヒューズ)	電気系統に過電流が流れると電気回路を遮断し、自動的に停止します。 作動状態 ：全停止します。
水切れ検知 (フロースイッチ)	タンクの水がなくなると水切れを検知し、ポンプを停止し、時間が経つと停止します。 作動状態 ：水切れを検知すると、加湿・冷風ランプが点滅し、ポンプが停止します。 その後、60分でファンが停止します。
送風ファンモーター 過負荷保護	モーターに過電流が流れると電気回路を遮断し、自動的に停止します。 作動状態 ：ファンが停止します。

3 初めてお使いになる方へ

3-1. 運転準備.....

★開梱（輸送時の固定用梱包の取り外し）

1 梱包を開け、ネジやフィルターに貼り付けてある固定用テープをはがしてください。

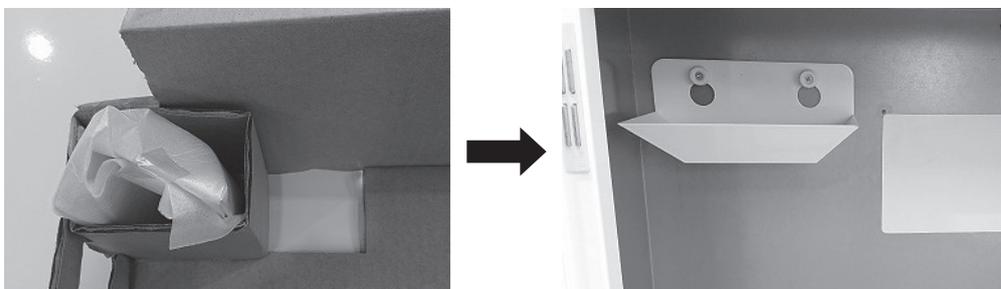


2 扉の中にある固定用段ボールを取り外し、タンク等に巻いてある緩衝材をはがしてください。



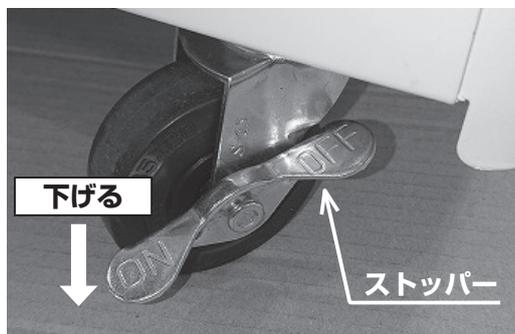
※固定用段ボールから掃除ブラシを取り外してください。掃除ブラシは散水管やホースの掃除に使用できます。別途保管しておいてください。

3 固定用段ボールに入っているポンプトレイを取り出し、下図のように樹脂ネジに引っ掛けてください。



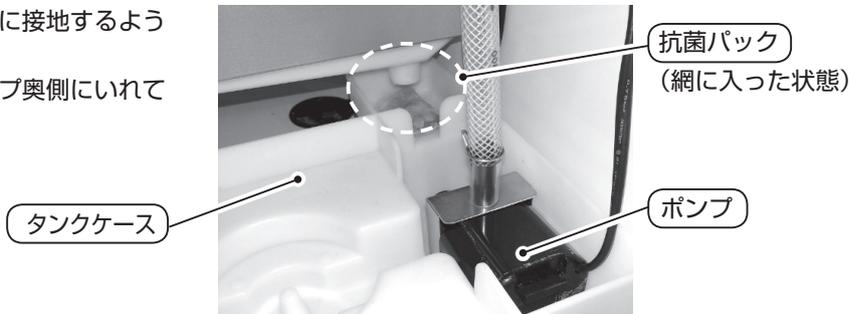
3-2. 本体設置.....

設置後、本体が容易に動かないように固定してください。本体には移動用のキャスターがついていますが、運転中はキャスターのストッパーをかけてください。（キャスターのストッパー『ON』を下げてロックをかけてください。）



3-3. ポンプの設置と抗菌パックの使用法.....

ポンプの底面がタンクケース底面に接地するように設置してください。抗菌パックをタンクケースのポンプ奥側にいれてください。



注意

- 絶対に口や目にいれないでください。
- 子供の手に届く場所に置かないでください。
- 本品はスライムの原因となる菌類の増殖をガラスから溶出する銀イオンにより抑制するものです。他の用途に使用しないでください。

3-4. 給水方法

1 扉を開け、タンクを取り出して
ください。



2 タンクキャップを取り外して
ください。



3 タンクをすすいでから、水道水
を口元まで給水してください。



4 タンクキャップを確実に閉め
てください。



5 タンクを本体にセットし、扉
を閉めてください。



注意

- タンクキャップにごみなどが付着しないように注意してください。タンクの水漏れやポンプが詰まるなど故障の原因となります。
- 補給水は必ず水道水をお使いください。井戸水や工業用水を使用すると、気化エレメント内で藻や細菌が増殖しやすく、気化効率が低くなったり、臭気発生の原因となるおそれがあります。
- 40℃以上のお湯や化学薬品、芳香剤、アロマオイルなど使用しないでください。タンクやタンクケースの破損や臭気発生の原因になります。

3-5. 扉のロック方法

扉の左上にあるドライバー錠をマイナスドライバーやコイン
などで反時計回りに 90° 回すことで扉をロックすることが
できます。

ロックを解除する場合は時計回りに 90° 回してください。



4 使用方法

初めてお使いになる場合は、気化エレメントの臭いがすることがありますが、数日でなくなります。
また、タンクケース、タンクの水は、必ず毎日排水をし掃除してください。(11 ページ 5-5 参照)

■ 使用時の注意事項

★運転前チェック (電源を切った状態でチェックしてください)

- 本体が水平で、キャスターがストッパーで固定されていますか？
- 電源コンセントとアースの接続は確実におこなわれていますか？
- 本体またはホースから水漏れがありませんか？

★運転時の注意

- タンクが空の状態加湿運転をしないでください。ポンプの空運転を繰り返すとポンプの寿命に影響します。
- 初めてタンクに給水する場合は、運転スイッチを押しても加湿・冷風ランプが点滅することがあります。この場合は、運転スイッチを押して再運転してください。
- 運転中、またタンク・タンクケースに水がある状態では本体を移動させないでください。水が漏れるおそれがあります。

★冷風機として使用する場合には換気を十分に

- 本機は水を気化して空気を冷やすため、運転を続けると室内の湿度が上昇します。換気の不十分な場所では湿度が過度に上昇し、冷房効果が低下します。
- 窓や扉は、十分に開け外気が出入りしやすいようにしてください。換気扇など強制換気装置と併用すると効果的です。
- 周辺の湿度があまり高くなりすぎると、冷房効果が得られなくなります。
(雨の日に洗濯物がなかなか乾かない=気化しないのと同じです。)

★運転終了時の注意

- 吸い込み空気中には様々な塵埃が浮遊し、気化エレメントに付着しますが、これらはエレメントの表面流水により洗い流されますので、タンクケース内の水は雑菌が増加します。
タンク、タンクケースの水は、必ず毎日排水をし、掃除してください。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持ってください。感電やショートして発火することがあります。

4 - 1. 運転手順

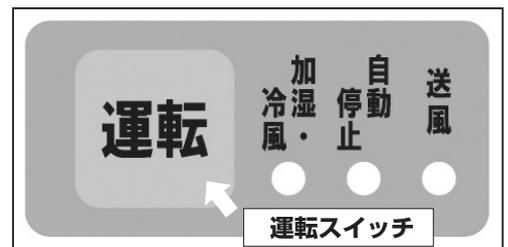
- “運転” スイッチを押すごとに【加湿・冷風】→【自動停止】→【送風】→停止となります。

1 “運転” スイッチを1回押すと加湿・冷風ランプが点灯し、ファンとポンプが作動します。

冷風機として使用したい場合も加湿・冷風運転でお使いください。

2 ポンプ作動とともに、本体上部の散水管からの散水で本体の側面にある気化エレメントに上部より通水します。
タンク内の水がなくなると加湿・冷風ランプが点滅します。
この場合は給水してください。再運転は、運転スイッチを押してください。

3 加湿・冷風運転中に“運転” スイッチを1回押すと、自動停止ランプが点灯してポンプが停止し、60分でファンが停止します。
加湿・冷風運転終了時には、必ず自動停止で終了してください。



注意

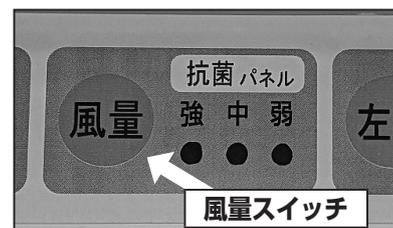
自動停止で終了しないと、気化エレメントが乾燥しないため、雑菌の増殖により臭いが発生することがあります。

4 自動停止ランプの点灯中に、“運転” スイッチを押すと送風ランプが点灯し、送風運転を開始します。
送風運転では水を使用しません。タンクに水が入っていても運転することができます。

5 送風運転中に“運転” スイッチを押すと、ファンが強制停止します。

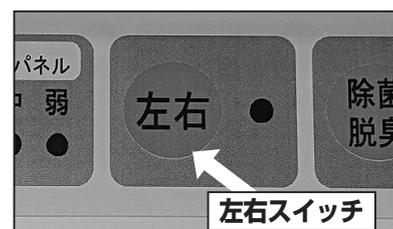
4-2. 風量変更の手順

“風量”スイッチを押すごとに“風量”ランプが【強】→【中】→【弱】→【中】→【強】と点灯し、風量が変わります。
お好みの風量でお使いください。



4-3. 左右風向変更の手順

- 1 “左右”スイッチを1回押すと“左右”ランプが点灯し、風向板が左右に動いて、風向が変わります。
- 2 “左右”スイッチをさらに1回押すと“左右”ランプが消灯し、風向板が停止します。



4-4. 上下風向変更の手順

手動で風向板の位置が変わります。6本それぞれを、お好みの位置でお使いください。



4-5. タイマー運転の手順 (この操作は、切タイマーとして動作します)

- 設定時間により、加湿・冷風運転または送風運転を停止します。

- 1 “タイマー”スイッチを押すごとに“タイマー”ランプが【1時間】→【4時間】→【8時間】→【消灯】→【1時間】…と点灯します。
- 2 加湿・冷風運転でタイマー運転が終了したとき、設定したタイマー時間のランプが点灯から点滅に変わり、ポンプが停止します。その後60分でファンが停止します。
- 3 タイマー運転中は、設定した“タイマー”ランプが点灯し、保持します。タイマー運転中にタイマー運転を解除するときは“タイマー”スイッチを1～3回押してください。タイマーランプが消灯し、解除します。



4-6. キーロック機能

- 1 “タイマー”スイッチを5秒間長押しすることでキーロックされます。(キーロック中はタイマーランプが全て点灯します。＊タイマー運転中の場合は設定しているタイマー時間のランプが点滅し、その他の“タイマー”ランプが点灯します) キーロック中は全てのスイッチ操作ができなくなり、直前の動作を継続します。
- 2 キーロックは“タイマー”スイッチを5秒間長押しすることで解除されます。(キーロック中に運転が停止した場合もキーロックは継続されますので、再運転時にはキーロックを解除してください)

4-7. 除菌脱臭運転の手順

“除菌脱臭”スイッチを押すごとに“除菌脱臭”ランプが【点滅】→【点灯】→【消灯】となります。

- 点滅：ターボモード
- 点灯：標準モード

＊ターボモードは1時間だけオゾンを多く出すモードです。臭いが気になる時などにお使いください。(1時間後に自動で標準モードに移行します)



除菌脱臭運転でのオゾン濃度は平均で0.05ppm以下、最大でも0.1ppm(許容勧告濃度)を超えないよう設定されております。下記の注意事項をよくお読みになってお使いください。

4-8. お知らせ機能

1 ●抗菌パックの交換お知らせ

ポンプの運転時間が指定の時間に達した場合、「加湿・冷風」「自動停止」「送風」の3つのランプが点滅します。
※点滅中に【運転ボタン】を3秒長押しでリセットされます。

2 ●冷却エレメントの交換お知らせ

送風ファンの運転時間が指定の時間に達した場合、「強」「中」「弱」の3つのランプが点滅します。
※点滅中に【風量ボタン】を3秒長押しでリセットされます。

3 運転スイッチと風量スイッチを押し続けながら電源プラグをコンセントに接続しますとお知らせ機能のONまたはOFFの状態が表示されます。運転ランプ3つが点灯しているとON、風量ランプ3つが点灯しているとOFF状態です。変更したい場合、運転スイッチまたは風量スイッチを押すと選択できます。任意の状態でも電源プラグをコンセントから抜くと決定されます。



■ 除菌脱臭運転についての注意事項

除菌脱臭にはオゾンを使用しております。

オゾン濃度が高くなると人体に有害な影響を及ぼすおそれがあります。本製品に使用しているオゾン発生器は人体に影響がでるほどオゾン濃度が高くなるものではありませんが、オゾンに対する感じ方には個人差がありますので、以下の条件を守ってご使用ください。

- 100 m³ (高さ 2.5m, 6.4m × 6.4m) 以下の場所では使用禁止
100 m³以下の空間ではオゾン濃度が高くなるおそれがあるため除菌脱臭運転は行わないでください。
※部屋の除菌脱臭目的で100 m³以下の空間で使用したい場合は、必ず無人で下記注意事項をご理解したうえでご使用ください。
- 換気のできない場所では使用禁止
密閉された空間ではオゾン濃度が高くなるおそれがあるため換気手段（扉、窓、換気扇等）がある場所でご使用ください。
- 吹出口から直接吸引をしない
吹出口ではオゾン濃度が高くなる場合があります。
- 喉や鼻に刺激を感じたり、目がチカチカするなどの不快感を感じた場合は、ただちに除菌脱臭運転を停止し、換気をする
オゾンに対する感じ方は個人差があります。不快感を感じる場合は、ただちに除菌脱臭運転を停止し、換気をしてください。
- オゾン臭を感じた場合は、ただちに除菌脱臭運転を停止し、換気をする
オゾン臭（独特な刺激臭）があり、不快感を感じる程度になるとオゾン濃度が高いため、ただちに除菌脱臭運転を停止し、換気をしてください。
- 病人や老人など、体の不調等を意思表示できない人がいる場所で使用する場合は十分注意する
上記の環境で使用する場合は様子を注意しながらご使用ください。
- 高濃度のオゾンは動植物（ペットや観葉植物など）にも有害な影響をおよぼすおそれがあります
高濃度のオゾンにさらされないよう、様子を注意しながらご使用ください。
- 下記の材質は吹出口付近に置かないようにしてください
高濃度のオゾンにさらされると劣化の原因となるおそれがあります。
 - ・天然ゴム類など（劣化の原因となるおそれがあります）
 - ・ナイロン 66 などの樹脂（劣化の原因となるおそれがあります）
 - ・塗装や油脂の皮膜がない鉄製品（サビの進行が促進されるおそれがあります）
 - ・貴金属製品（酸化作用により装飾性を損なうおそれがあります）

● 気中オゾンの生物への影響

濃度 [ppm]	人体・その他への影響	備考
0.01 ~ 0.03	ほとんど臭わない	自然界の日中の濃度
0.04 ~ 0.06	爽やかな臭い, オゾンの臭いがある	海岸・山 (晴天の夏 PM2:00)
0.06	これ未満は慢性肺疾患患者の肝機能に影響無し	オキシダント環境基準
0.08	不快感がある のどが痛い, 目がチカチカするなど	不快基準
0.10	人体への影響 (のど・目・鼻が痛い)	USA 環境基準 日本産業衛生協議会許容勧告濃度
0.60 ~ 0.80	頭痛・せき・呼吸困難	
0.50 ~ 1.00	呼吸障害	
1 ~ 2	2 時間暴露で頭痛・胸部痛など	

上記の表は下記文献を抜粋引用させていただきました。

参考文献：『新版オゾン利用の新技术』（サンユー書房）

：『有害物管理のための測定法』（労働科学研究出版部）

5 定期点検・掃除方法

定期的な保守, 点検は長時間効率良く快適にご利用いただくために是非とも必要です。フィルター, 気化エレメント, タンク, タンクケースの汚れ状況を見ながら適宜おこなってください。早めに洗浄すれば汚れは簡単に取り除くことができ, 気化効率も維持されます。少なくとも, シーズンの始めと終わりには必ず実施してください。



注意

- 点検, 掃除作業の前に電源プラグを抜いてください。感電のおそれがあります。
- 内部の電気部品には水をかけないでください。部品の故障の原因になります。

5-1. フィルター・気化エレメント・散水管の取り外し方

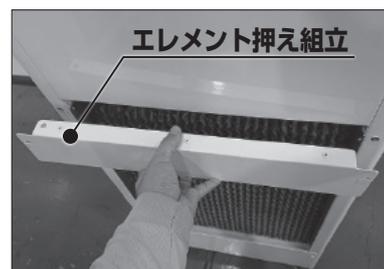
1 フィルター

フィルターの取手を持ち, 少し上にあげてから手前に引き抜きます。



2 エレメント押え

2本の樹脂ネジを外して, エレメント押え組立を外します。



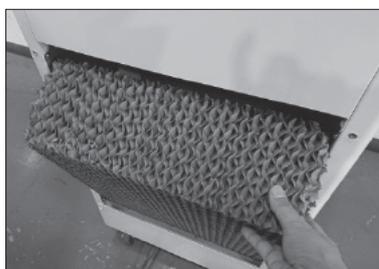
3 スペース・バー

バーを機体前側に寄せて軽く曲げ, 手前に引き抜きます。(2本あります)



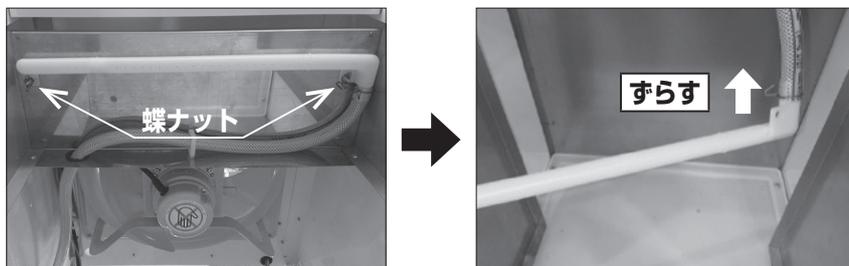
4 気化エレメント

気化エレメントの上部を持って手前に倒し, 斜め上に取り外します。気化エレメントは壊れやすいので十分に注意してください。



5 散水管

蝶ナット（2 個）を外し、散水管を外します。
ホースクリップをホース側にずらし、ホースを外します。



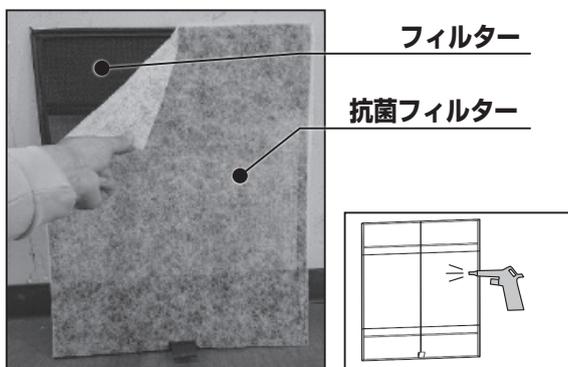
5 - 2. フィルター・気化エレメント・散水管の点検・掃除方法

1 フィルター

抗菌フィルターに汚れ・目詰まりがある場合は、抗菌フィルターを交換してください。（交換目安：6 ヶ月）
※使用する環境によって交換の頻度は異なります。

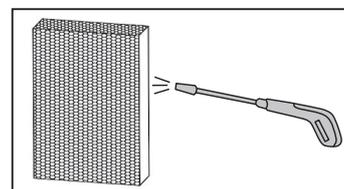
抗菌フィルターの交換方法

- ① フィルターから抗菌フィルターをはがしてください。
- ② フィルターに汚れ・目詰まりがある場合は、エアブローをしてください。（エアガンがない場合は、ブラシを使用してください。）汚れがひどい場合は交換をしてください。
- ③ 新しい抗菌フィルターをフィルターに貼り付けてください。



2 気化エレメント

汚れ・目詰まりや臭いの発生がある場合には、高圧洗浄機などで掃除をしてください。（圧力が強すぎると、破損する場合がありますので注意してください。）
汚れがひどい場合は交換をしてください。



3 散水管

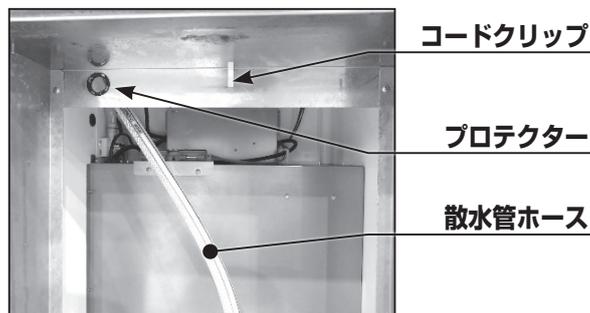
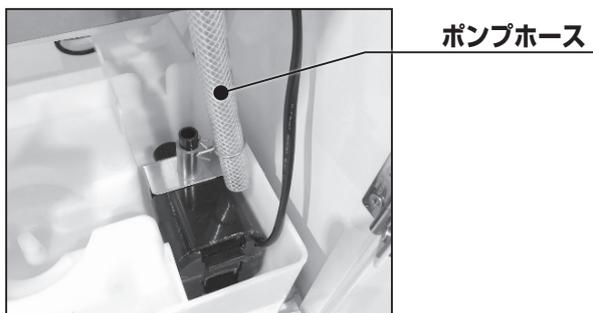
気化エレメントに濡れていない部分がある場合や汚れ・目詰まりがある場合は、ブラシなどを用いて掃除をしてください。散水の穴は針金などの先端などで掃除をしてください。（分解洗浄可能です）
汚れがひどい場合は交換をしてください。



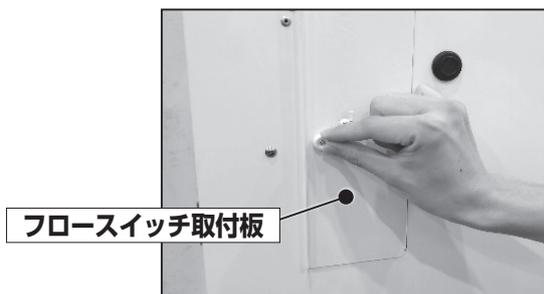
5 - 3. ホースの掃除方法

1 ホースクリップをホース側にずらし、ポンプホースを外します。

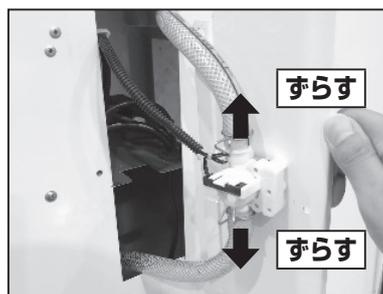
2 「5-1」で外した散水管ホースをコードクリップから外し、プロテクターから抜いてください。



- 3** 樹脂ネジ1本を外して、フロースイッチ取付板を外します。



- 4** ホースクリップをホース側にずらし、フロースイッチに接続しているホース2本を外します。



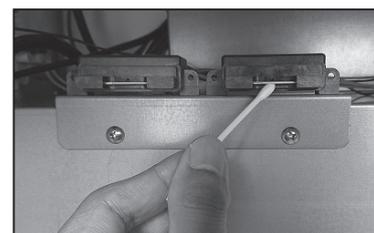
- 5** 外したホースをブラシなどを用いて掃除してください。汚れがひどい場合は交換をしてください。



5-4. オゾナイザーの点検・掃除方法

気化エレメントを外し、オゾナイザーの電極部を確認してください。電極部に汚れがある場合は、濡らしたブラシや綿棒などを使用して拭き取ってください。

※電極はセラミックやガラスで覆われているため、割らないよう注意して掃除を行ってください。

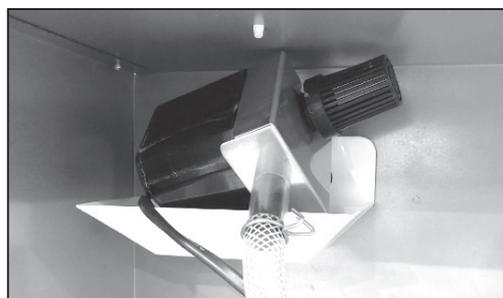


5-5. タンク及びタンクケースの掃除（毎日実施してください）

- 1** タンクを取り出しすすぎ洗いをしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤などで洗浄してください。



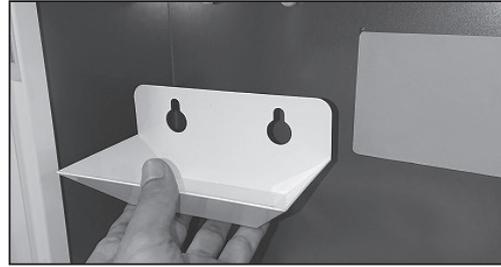
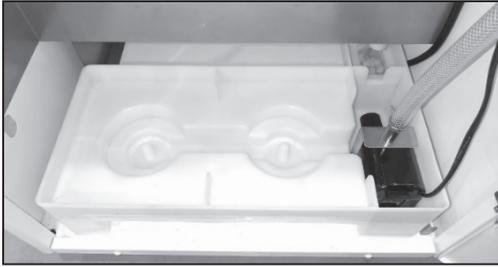
- 2** タンクケースを取り外す前にポンプをポンプトレイに置いてください。



- 3** タンクケースを取り出してすすぎ洗いをしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤などで洗浄してください。

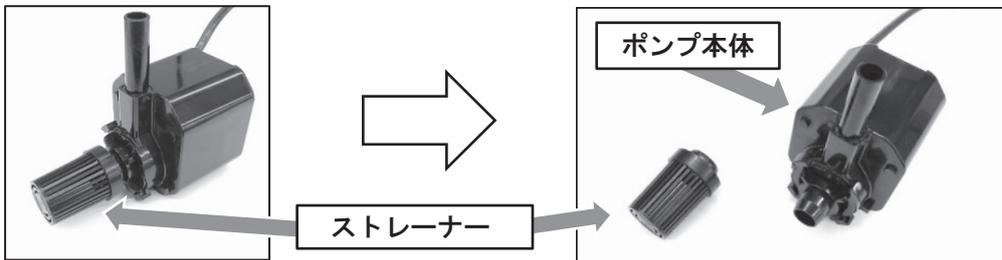


- 4 タンクケースとポンプを元の位置に戻してください。ポンプトレイに水がたまっている場合はポンプトレイを外し、水を捨ててください。

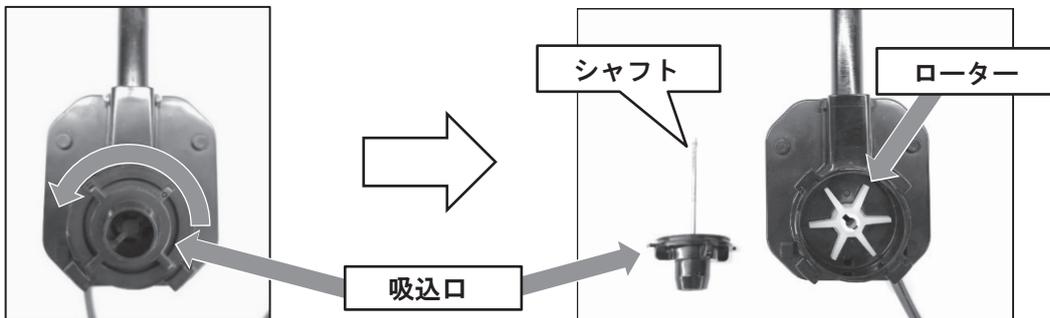


5 - 6. ポンプの掃除方法

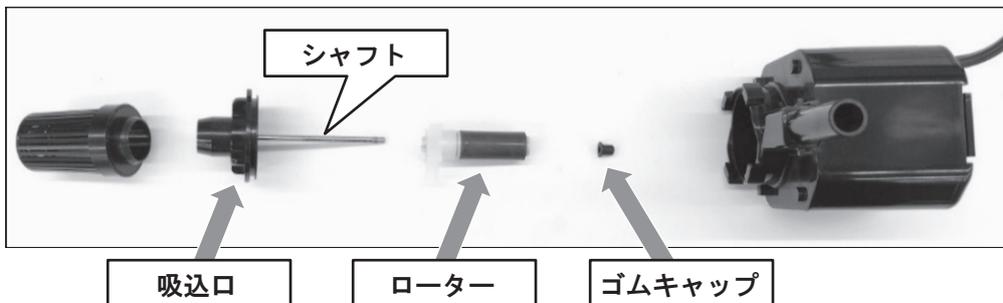
- 1 ストレーナーを取り外します。
異物の付着があった場合は掃除を行ってください。



- 2 吸込口を反時計回りに回してロックを外し、吸込口を引き抜きます。



- 3 ローターをポンプ本体から外します。(磁力が強いので外す際は注意してください)
異物の付着があった場合は掃除を行ってください。
※シャフトとローターが固着している場合があります。
その場合はスムーズに回転するようにシャフトとローターを掃除してください。



※特に目立った汚れがある場合や交換時以外は、ゴムキャップはポンプ本体から外さなくても構いません。

- 4 掃除後、元の形に組み直してください。

6 故障・異常時の処置

下表の処置方法が「販売店に連絡する」の場合や、処置方法に従って処置しても直らない場合は、お買い求めの販売店、または、最寄りの弊社営業所（巻末参照）へお知らせください。その際に、製品の異常の状態と製品の型式名、製造番号をお知らせください。

現象	原因	処置方法
● 全く動かない	● 主電源が入っていない	● 主電源を入れる
● 風量が少ない	● 電源電圧が低い	● 電気業者に連絡する
	● フィルターや気化エレメントが目詰まりしている	● フィルターや気化エレメントを掃除する
	● 吸込み側の空間が狭い	● 吸込み側の空間を広くする
● 加湿ランプが点滅する	● タンクの水量が少ない	● 給水する
	● 散水管が目詰まり	● 散水管を掃除する
	● ホースの詰まり	● ホースを掃除する
	● ホースの折れ	● ホースの折れを直す
	● ポンプの動作不良	● ポンプを掃除する
	● フローススイッチの動作不良	● 販売店に連絡する
● 本体からの水漏れ	● 本体が水平に保たれていない	● 本体を水平にする
	● 部品の接続不良	● 漏水部の接続をやり直す
	● 部品の破損	● 販売店に連絡する
● 振動や騒音の発生	● ファンまたはファンまわりの不良	● 販売店に連絡する
● 不快な臭いがする (除菌脱臭運転をしていない状態)	● 循環水や循環経路に雑菌が繁殖している	● タンク及びタンクケースの掃除をおこない、新しい水道水に入れ替える
	● 気化エレメントに黒カビなどの汚れが目立つ	● 気化エレメントを交換する
	● 環境や水質によって臭いが発生する場合があります	● 気化エレメントを交換する ● 抗菌パックを交換する
● 運転ランプ3つが点滅する	● 抗菌パックの交換時期	● P8「4-8お知らせ機能」参照
● 風量ランプ3つが点滅する	● エレメントの交換時期	

7 仕様

型式	HSE302 α
電源	単相 100V
消費電力 (50/60Hz) (W)	73/97
吹出方向	上下手動風向
	左右自動風向
風量 (50/60Hz) (m ³ /min)	22.3/25.6 (最大)
	3.4/3.6 (風量強)
	2.7/2.9 (風量中)
	2.6/2.3 (風量弱)
有効貯水量 (L)	16 (8×2)
連続使用時間 (50/60Hz) (h) ※ 1	4.7/4.4 (風量強)
	5.9/5.5 (風量中)
	6.1/6.9 (風量弱)
給水方式	タンク貯水式
安全装置	過電流保護・水切れ検知 モーター過負荷保護
運転音 (50/60Hz) [dB (A)] ※ 2	48.9/52.9 (風量強)
	46.8/46.5 (風量中)
	43.9/40.8 (風量弱)
外形寸法 (高さ×幅×奥行 mm)	1337×578×489
質量 (kg)	50.6
使用温度 (°C)	5～45

※ 1：入口空気条件が 20℃・相対湿度 30%の時のもの。
 ※ 2：上下風向板は上方向、左右風向板は正面方向のもの。

■ 清掃、消耗部品の交換の頻度

タンク内の残水の排水	毎日
タンクのすすぎ洗い	毎日
タンクケース内の残水の排水	毎日
タンクケースのすすぎ洗い	毎日
部品の分解清掃	
気化エレメント	1ヶ月に1回
散水管	1ヶ月に1回
ホース	1ヶ月に1回
フィルター	1ヶ月に1回
オゾンナイザー	1ヶ月に1回
消耗部品の交換	
抗菌フィルター	6ヶ月に1回
気化エレメント	1年に1回
抗菌パック	2年に1回

9 保管(長期間使用しない場合)

長期間使用しない場合は、次のような手入れをして保管してください。
微生物などの繁殖による臭気の発生や凍結による部品の故障のおそれがあります。



注意

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持っておこなってください。
感電やショートして発火することがあります。

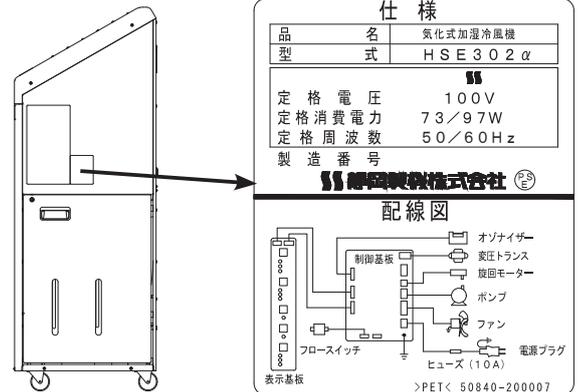
- 1 送風運転により、気化エレメントを乾燥します。(6ページ参照)
- 2 気化エレメントが十分乾いてから(強風量で60分程度)、運転スイッチを押して運転を停止します。
- 3 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
- 4 タンク・タンクケースを取り出し、タンク・タンクケース内の残水を完全に排水します。
このときポンプ、散水管、ホースの残水も排水してください。(9ページ参照)
- 5 タンク・タンクケースを中性洗剤などで洗浄します。
- 6 フィルター・気化エレメント・散水管・ホースも汚れの状況を見て、洗浄を実施します。(10ページ参照)
- 7 保管は屋内で、湿気の少ない場所にしてください。

10 アフターサービス

- 修理サービスを依頼される前に「故障・異常時の処置」をご覧になり、もう一度ご確認ください。それでも異常のある場合は、お買い求めの販売店または、最寄りの弊社営業所(16ページ参照)にご相談ください。なお、ご相談の際には、製品の異常の状態と製品の型式名、お使いの製品の製造番号をお知らせください。

製造番号は、製品の側面に貼付してある「仕様・配線図ラベル」にしるしてあります。(右図参照)

- この製品は、1年間の無償保証書がついておりますので、大切に保管してください。なお、保証期間内に修理を依頼される場合は、保証書を添えてください。
- 下記の場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。
 - (1) キャスター・フィルター・気化エレメント、などの消耗品
 - (2) 誤使用による故障
例) 電源200V使用による電気部品の焼損
 - (3) 火災・浸水・落雷などの災害によるもの
 - (4) 腐食性ガスの発生する場所で使用した場合の部品の腐食
例) 畜舎などアンモニアガス等の発生する場所
 - (5) その他、取扱説明書に記載してある以外の使い方による故障



- 無償修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有償修理いたします。販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。
 - (1) この期間は経済産業省の指導によるものです。
 - (2) 性能部品とは、その製品を維持するために必要な部品です。

11 定期交換部品

- 気化エレメント (型式: 50835-201038)
- 抗菌フィルターセット (型式: 50840-107001)

- 散水管組立 (型式: 50811-101006)
- フィルター (型式: 50811-201011)

12 別売部品

- 抗菌パック (型式: 50840-100002)
(抗菌パックは弊社の製品をご使用ください。)
- 湿度調節器 (型式: 50836-005001)

製品保証書 [保証期間 1年]

型式：HSE302α	製造番号：—
お客様記入欄	販売店様記入欄
お名前	販売店様名称 印
ご連絡先	
ご購入日	販売店様連絡先

弊社は、上記の製品単体について、下記の通り保証いたします。

- | | |
|--|---|
| (1) 保証期間中に、正常な使用状態において生じた、製造上の責任による故障又は損傷につきましては、無償修理をいたします。 | (3) 下記の場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。 |
| 尚、無償修理において交換された旧部品は弊社の所有物となり、弊社が任意に処分できるものとしますのでご了承ください。 | (イ) 保証書の提示がない場合 |
| (2) 次の場合は、保証期間中でも「有償修理」といたします。 | (ロ) 製品の性能等が、弊社規格内である場合 |
| (イ) 取扱説明書に記載してある以外の使い方、誤った使用、過失及び整備、保管の不備により生じたと認められる故障等 | (ハ) 弊社製品の使用又は使用できなかったことによる二次的損害(逸失利益の損害、事業の機会の損失、その他金銭的損害等) |
| (ロ) 納入後の転倒、衝撃、及び改造や純正以外のオプション、部品の使用が原因で生じたと認められる故障等 | (4) この保証書は、お買上げ時の領収書などの購入履歴のわかるものと併せて保管してください。 |
| (ハ) 火災、地震、台風、落雷等の災害により生じたと認められる故障等 | (5) お客様がご記入されました個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。 |
| (ニ) 使用損耗や経年変化により発生する現象 | (6) 保証書を紛失された場合の再発行はいたしかねますのでご注意ください。 |
| (ホ) ご購入の販売店や弊社指定のサービス店以外で修理されて故障した場合 | (7) 本機の保証は日本国内で使用される場合に限りです。 |
| (ヘ) その他上記に準ずるもの | 【 This warranty is valid only in Japan. 】 |

静岡製機株式会社



● 製品の修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買上げの販売店もしくは最寄りの弊社営業所にお申し付けください。

静岡製機株式会社 URL : <https://www.shizuoka-seiki.co.jp/>

北海道営業所	〒007-0804	札幌市東区東苗穂4条3丁目4番12号 TEL (011) 782-5294 (代) FAX (011) 782-8258	関西営業所	〒661-0032	兵庫県尼崎市武庫之荘東2丁目10番8号 TEL (06) 6432-7880 (代) FAX (06) 6432-7487
東北営業所	〒989-6136	宮城県大崎市古川穂波3丁目1番14号 TEL (0229) 23-7219 (代) FAX (0229) 21-1464	九州営業所 駐在	〒835-0004	福岡県みやま市瀬高町山門1841-1 TEL (0944) 88-9136 FAX (06) 6432-7487
関東営業所	〒175-0094	東京都板橋区成増1丁目17番2号 TEL (03) 6904-3786 (代) FAX (03) 6904-0302	産機営業部 産機営業企画課	〒437-1121	静岡県袋井市諸井1300 TEL (0538) 23-2825 FAX (0538) 23-2890
中部営業所	〒437-1121	静岡県袋井市諸井1300 TEL (0538) 23-1605 (代) FAX (0538) 23-1608			



インキはベジタブルインキを使用しています。弊社では、地球にやさしい印刷物を常に考えています。